

# 《共同で温かいお金・楽しいお金を創り出そう》

## 「寺子屋地蔵基金」設立の呼びかけ

新型コロナウイルスによって、私たちの生活は一変しました。現在も、私たちはその渦中にあり、今後この社会がどのように変化していくことになるのか注視しながら、それぞれの暮らしを守るために答えの出ない問いに向き合いつづけています。

そのような中、延命寺で2015年から継続してきた内山節先生の寺子屋では、この状況にいち早く取り組み、この4月から、「コロナウイルス問題と私たちの社会」というテーマで、「内山節先生と一緒に考え、対話することで、〈これから〉に備えていく」プロジェクトを始動しました。これまで3回開催してきた寺子屋のフィードバックからは、この取り組みで、まさに、今、社会で広く必要とされている「動き」の一つを、未来に向かった大切な「動き」の一步を、皆さまと一緒に創り出せているのではないかと感じています。ですから、この「動き」を止めることなく進め、さらに広げていきたいと思っています。

この3ヶ月、寺子屋を運営しながら、寺子屋を更に広げていきたい、広げるべきだという思いと、運営体制の限界との間で葛藤してきました。そんな折、特別定額給付金として一律10万円が給付されることになったことを受けて、内山先生から「このお金を未来に向かって皆で応援しあえるようなお金に変えていける基金をつくらないか」という提案をいただきました。それをきっかけに寺子屋を現在運営しているメンバーで話し合いを重ね、この機会に、この貴重な学びのコミュニティである寺子屋を存続させ、発展させていくために、そして寺子屋での学びを社会に広めていくために、下記のとおり、「寺子屋地蔵基金」を設立することにいたしました。

今後は、この「基金」を一つの原動力として、寺子屋を他の方にも知らせたいという方や、参加したいという方々に、より門戸を開けるようにしたいと思います。そして、オンラインになったことで定期的に参加できるようになった方々が今後も繋がりに続けられるように、直接集まれるようになって、中継できる体制も整えていきたいと思っています。そのために10月を目処に、寺子屋専用の事務局体制に切り替える予定です。このようにして、継続していきながら、この寺子屋からさまざまな可能性が生まれることに向かいたいと思います。

寺子屋というプロジェクトは、月1回の寺子屋を開催している時間のみにとどまらず、広がっていくものだと思います。今回の新型コロナウイルスによって、社会には大きな変化が生まれています。この「自粛」一辺倒の空気の中、その副作用がどのように顕在化するのかはまだ未知数ですが、分断や切り捨てはすでに生じています。そのような変化の波の中で、この寺子屋に連なっていることで、状況を正視し、考えが整理され、明日を生きる元氣を得ることができるともかもしれません。または、寺子屋に連なっている人の中から、それに抗い、本気で守りたいもののために新たな活動を生み出そうと動き出す人がいるかもしれません。それを、寺子屋での対話で思いを語り合ったことが後押しすることになるのかもかもしれませんし、相互に連携し合おうという繋がりが生まれるのかもしれません。全く混沌とした現在、具体的なことはわかりません。ですが、もしそのような動きが出てくるならば、それを応援しあえるようなことに向かいたい。この基金の呼びかけは、そのために、まずは、寺子屋を継

続させ、記録を残し、それを形にして社会に広げていくために、今、お財布を一緒に作りませんか、というお誘いです。

一律給付金に対しては、考え方も、そして置かれている状況も、一人一人異なることだと思います。ですから、寺子屋に連なっているからといって寄付しなくてもかまいませんし、寄付したからといって特別な権利が生じるわけではありません。そうではなく、このお誘いによって、一緒にお財布をつくり、一緒に未来に向けた有効なお金の使い方を考えていこうという連なりを作りたいと思っています。まずは準備会として立ち上げ、半年以内に運営委員会を設立しようと思います。その間に、運営委員会に入ることに関心のある方や、不明な点がある方はお問い合わせください。

さいごに、この基金の名称には、プロジェクトそのものを表す「寺子屋」と、象徴的な意味で大切にしたい「地蔵」という言葉をいれました。「地蔵」をいれたのには、これまで寺子屋を開催してきた延命寺のご本尊はお地蔵さんであって、オンラインになって、関係が変わっていくことになったとしても本拠地であり始まりの場でありつづけることを忘れないということと、そして、暮らしに根づいた活動をしていくことを忘れないでいたいという想いが込められています。お地蔵さんは、どこでも、人々の暮らしに一番近いところで、人々の願いや救いを求める祈りを聴いてきた存在です。この基金をどうしていくか、迷った時には、お地蔵さんに、暮らしの中の共に生きる関係を創造していくことに向かうことを思い出させてもらいながら、進めていきたいと思っています。

2020年7月5日  
寺子屋地蔵基金 呼びかけ人一同

## 記

1. 基金の名称：寺子屋地蔵基金
2. 基金の目的：コロナ禍に向き合い未来を創造していくプロセスとしての寺子屋プロジェクトの継続と発展のため  
【寺子屋地蔵基金が支援すること】
  - ①新たな運営体制のもと、寺子屋のプロジェクトを継続し、広げていくこと
  - ②オンラインになったことを活かしてより広がりをつくっていくこと  
※通常の寺子屋開催の運営費は、各回で徴収する参加費からまかないますので、この基金の対象ではありません。
  - ③寺子屋のプロセスの記録（アーカイブ化）と発信（ホームページ等）
  - ④アーカイブ資料の社会化（書籍・DVDなど）
  - ⑤寺子屋を継続していくなかで生まれた活動の相互支援
3. 基金の集め方
  - ・一口1万円から集めます。
  - ・領収書はメール添付で発行します。
  - ・寄付金控除の対象にはなりません。

- ・一回完結型として集めますが、あるプロジェクトの遂行のために追加募集をすることがあるかもしれません。
- ・このプロジェクトが発展し、更に機運が高まったら新たなプロジェクトを再び立ち上げるかもしれません。

#### 4. 基本の使い方

- ・運営委員会を作り、どのように使ったら一番有効に使えるかを検討します。
- ・集まった基金の額によって、上記①～⑤のうち何に使うかを決めていきます。
- ・使う内容と金額が決定したら寄付者にはご連絡いたします。

#### 5. 口座

東京スマイル農業協同組合 葛飾支店  
 店舗番号：5100-010  
 口座番号：0023860  
 口座種別：普通  
 名義： 寺子屋地蔵基金 小林永照

#### 6. 運営の指針（準備会の段階で決まっていること）

- ・寄付額と運営における決定権は比例しない。
- ・基金の使い方は、運営委員会で決定する。
- ・準備会発足（2020年7月5日）から半年以内に、第1回の会合を開き、運営委員会を発足する。
- ・活動報告と会計報告を行う。
- ・この基金が何らかの事情で解散する時には、余剰金は運営委員会の合意のもと、  
 ①他団体へ寄付、または、②延命寺のお地蔵さんに託すこととする。

#### 7. 準備会 メンバー

代表	小林永照	（青砥やくじん延命寺・副住職）
運営委員	笹谷遼平	（映像作家）
運営委員	古瀬正也	（古瀬ワークショップデザイン事務所・代表）
会計	谷口起代	（合同会社共創ラボ・代表 立教大学社会デザイン研究所・研究員）
監査	細川あつし	（従業員所有事業協会・代表理事 跡見学園女子大学・教授 立教大学21世紀社会デザイン研究科・客員教授）
顧問	内山 節	

#### 8. 問い合わせ窓口： 谷口起代

（ホームページ上のコンタクトのページから、  
 寺子屋事務局までメールをお送りください）

以上